

令和元年5月30日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K18748

研究課題名（和文）農業・食品産業と観光資源の融合による地域活性モデルの構築

研究課題名（英文）Regional revitalization based on food tourism

研究代表者

石田 貴士 (Ishida, Takashi)

千葉大学・大学院園芸学研究科・助教

研究者番号：30623467

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、地域の農・食と観光資源の融合によるフードツーリズムについて効果的なマーケティング戦略を示すために、アンケート調査をもとに、その需要者である観光客の嗜好や意思決定プロセスの解明を行った。その結果、フードツーリズムに関心のある観光客が、観光においてどのようなものを重視しているか、フードツーリズム観光客の周遊行動が初回訪問時とリピート時でどのように変化するかを明らかにした。さらに、近年観光において重視されているインバウンド観光客が日本の地方都市の観光資源をどのように評価するかについても示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果は、フードツーリズムによる地域経済振興政策を考える上で、地域の農や食をどのような観光資源と組み合わせる観光客に提供することが、地域の競争力を強めるのに必要か、訪問回数によってそのパッケージングをどのように変更するべきかについて示唆を与えてくれる。また、インバウンド観光客の嗜好についての調査は、これからインバウンド観光客の受入体制の構築を目指す自治体などにとって参考になると考えられる。

研究成果の概要（英文）：We classified local foods into high-class foods and B-class gourmets and then segment sample tourists. Further, we examine that tourists who belong to each segment are interested in eating which type of foods, such as high-class foods and B-class gourmets, using principal component analysis.

We also conducted a questionnaire survey to clarify how the tourist abroad, so-called inbound feel the visiting local cities in Japan and what requirements they raise for better arrangement of the tour.

研究分野：観光マーケティング

キーワード：フードツーリズム 観光マーケティング 消費者分析 アンケート調査 インバウンド

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

産業集積の少ない地方中小都市では、産業の空洞化が急速に進む状況となっており、新たな雇用・所得稼得機会をもたらす地域経済の展開が必要である。農林水産省と経済産業省は、農工商連携や6次産業化を地域経済の再生を図るための政策として推進するなど、農と食を軸に、観光を含む地域資源の活用や関連産業との融合によって、新たな付加価値を生み出す政策を推進している。特に観光は、宿泊・旅行・運送・外食・農林水産業に広く関わる裾野の広い総合産業といえ、地域経済の振興に大きく寄与する可能性を持つ。農や食と観光の融合、いわゆるフードツーリズムにおいては、農業の多面的機能を体験するグリーンツーリズムのように、農や食を単に観光資源とするだけでなく、地域全体のイメージアップにつながる広報手段としての利用や、ブランド管理食品の開発など食品産業の振興につなげるなど、そのめざすところが多様化している。例えば、新規の郷土料理「B級グルメ」を全国の地方都市がアピールする催しであるB-1グランプリは、料理と食材そのものを売ることよりは、むしろ地域そのものをアピールして観光資源の充実をはかる場となっている。農・食と観光資源との融合を効果的に行い、地域産業の振興を実現するためには、その需要者である観光客の嗜好や意思決定プロセスを理解することが必須である。学術的には、観光客の意識・態度・行動に関する情報をもとに、消費者行動理論に基礎をおく実証分析によって彼らの特性や行動のメカニズムを解明しなければならない。

また、近年は、インバウンド観光客の増加が著しく、観光需要増加による地域経済振興の柱として期待されている。しかしながら、実態としては、インバウンド観光客はゴールデンルートなどに集中しており、地方中小都市では、インバウンド観光客をいかに取り込むかが重要な課題となっている。地方中小都市がインバウンド観光客を呼び込むためには、彼らのニーズを把握し、それに基づいた受け入れ態勢の構築が必要である。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、農と食を軸に、観光を含む地域資源の活用や関連産業との融合による地方中小都市の経済振興について、その需要者である観光客の嗜好や意思決定プロセスを解明し、効果的なマーケティング戦略を示すことにある。そのために、ここでは、(1)フードツーリズム観光客の特性の解明と(2)インバウンド観光客誘致のための受け入れ態勢の構築への課題という2つのテーマを掲げ、観光客などへのアンケート調査により得たデータをもとにした計量経済分析により、インプリケーションを導き出すことを目指す。(1)フードツーリズム観光客の特性の解明では、訪問回数と地域の農や食が観光資源として果たす役割の変化とフードツーリズム観光客の属するセグメントについて研究する。訪問回数については、先行研究でも初回訪問者とリピーターで観光の目的が変化することが指摘されている。訪問回数によってフードツーリズム観光客の行動がどのように変化するかを明らかにすることは、地域の農や食と他の観光資源とのパッケージングを訪問回数によってどのように変更して情報発信するかを検討するうえで重要である。また、フードツーリズム観光客が、観光において何を重視するセグメントに属しているかを明らかにすることは、地域の農や食をどのような観光資源と組み合わせるかを観光客に提供することが、地域の競争力を強めるのに必要かを検討することが必要である。(2)インバウンド観光客誘致のための受け入れ態勢の構築への課題については、日本の地方中小都市の観光資源に対するインバウンド観光客の評価について解明するとともに、インバウンド観光客受け入れ先進地域での受け入れ態勢について取りまとめることを目指す。インバウンド観光客が地方都市の観光資源のどのような点に魅力を感じ、どのような点に不満を感じるかを整備することは、地方都市への外国人観光客誘致の可能性がどこにあり、どのような受け入れ態勢の構築が望まれるかを探るうえで重要である。また、インバウンド観光客受け入れ先進地域でどのような取り組みが行われているかを整理することは、今後受け入れ態勢の構築を検討する地方都市にとって重要な資料になると考えられる。

3. 研究の方法

(1)フードツーリズム観光客の特性の解明

訪問回数と地域の農や食が観光資源として果たす役割の変化

地域の食を観光資源として利用している地域として、ご当地B級グルメ「黒石つゆやきそば」で町おこしを行っている青森県黒石市をとりあげ、やきそばのまち黒石会加盟店舗を訪れる観光客へのアンケート調査を行なった。アンケート調査票では、黒石市内訪れる観光スポット、訪問回数、居住地域などを訪ねた。アンケート調査により得られたデータをもとに、コレスポネンダ分析によって地域を訪れる目的が、初回の訪問者とリピーターとでどのように変化していくかを検証した。

フードツーリズム観光客の属するセグメント

地域の食を地域名産の高級食材・高級料理とB級グルメの二つに分け、それらの食を楽しむ観光客が、観光において何を重視するセグメントに属しているかをアンケート調査で集めたデータをもとに主成分分析により検討した。さらに、各セグメントがどのような人によって構成されているかをしるために、主成分得点を被説明変数とした回帰分析を行った。

(2)インバウンド観光客誘致のための受け入れ態勢の構築への課題

日本の地方中小都市の観光資源に対するインバウンド観光客の評価の解明

外国人観光客が日本の地方都市にどのような観光資源を求めている、それらに対してどのような評価を行っているのかを明らかにするために、青森県黒石市が実施した留学生モニターツアーの参加者に対し、アンケート調査を行った。調査票では、訪問場所について評価の高い良い点、悪い低い点を自由記述で尋ねた。さらに、外国人観光客の行動パターンを把握するために、日本の観光情報を探るときにどのような情報源を利用するのか、日本観光に対し何を求めているのかについても同時に尋ねた。調査票は、ツアー開始時に配布し、各訪問地で記入してもらい、ツアー終了時に回収した。アンケート調査をもとに、モニターが黒石市の観光資源のどのような点に魅力や不満を感じるのかを明らかにするために、訪問したそれぞれの場所において評価の高かった点、低かった点についての回答を文化、文化以外の体験、料理、自然景観・立地、歴史的建造物、ホスピタリティ、その他のカテゴリーに分類しまとめた。なお、回答には提供された情報量に関する記述、特に観光資源をより深く理解するための情報の要求に関する記述が多く見られたため、観光資源をより深く理解するための情報に関する記述と、その他の情報に関する記述、情報以外についての記述に分類してまとめた。

インバウンド観光客受け入れ先進地域での受け入れ態勢

インバウンド観光客受け入れ態勢の整備の方向性を探るために、年間51.3万人(平成29年)の外国人観光客を受け入れているインバウンド先進地域の岐阜県高山市の事業者ヒアリングを行ない、ヒアリング調査をもとに、外国人観光客にとって魅力的な観光地づくりの方策、および、外国人観光客を受け入れることで起こりうるトラブルとその対処法についてまとめた。

4. 研究成果

本研究課題の成果は、「5. 発表論文」に示すように、(1)フードツーリズム観光客の特性の解および(2)インバウンド観光客誘致のための受け入れ態勢の構築への課題について、それぞれ2本ずつの論文としてまとめた。さらに、地方中小都市の経済振興策について、工場誘致の面からも検証を行った。それぞれの研究成果により明らかにした点の概要は以下のとおりである。

(1)フードツーリズムについての研究

訪問回数と地域の農や食が観光資源として果たす役割の変化

B級ご当地グルメを観光の最重要目的として訪れる観光客の割合は、居住地の距離が離れるほど小さくなり、その一方で、近隣都市の観光地を訪れるついでに訪れる割合が大きくなる。この結果は、遠方からも地域に観光客を誘致するためには、B級ご当地グルメだけではなく、近隣の知名度の高い観光地とのパッケージングが必要であることを示唆している。初回訪問者とリピーターとの間で、観光目的の違いが見られ、初回訪問者は、黒石市内での滞在時間が短い観光、リピーターは、黒石市内での滞在時間が長い観光を目的とする傾向があることが示された。したがって、地域を訪れたことが無い人に対しては、B-1 グランプリやメディアを介して、ご当地グルメと、近隣の地域や地域内の滞在時間が短い観光地資源パッケージングしたプロモーションが効果的であり、リピーター獲得のためには、地域を訪問中の観光客に対して、地域内での滞在時間が長くなる観光資源を紹介することが必要であることが示唆される。

フードツーリズム観光客の属するセグメント

観光客は以下の5つの軸によって分類された。それらは、様々な項目を総合的に楽しみたい観光客と特定の項目のみを重視する観光客に分類する軸、日常生活の延長にある楽しみを仲間と共有すること、非日常的な体験のどちらを重視するかを分類する軸、観光に対して刺激とくつろぎのどちらを好むかを分類する軸、観光の阻害要因による制約の受けやすさを表す軸、移動型の観光と滞在型の観光のどちらを好むかを分類する軸である。各軸に対する高級食材・高級料理およびB級グルメの主成分負荷量から、高級食材・高級料理を食べる観光に関心のある者は、観光において仲間との時間の共有を好むセグメントとお金やアクセスによる制約を受けにくいセグメントに属していること、一方で、B級グルメを食べる観光に関心のある者は、観光において、仲間との時間の共有を好むセグメント、お金やアクセスによる制約を受けにくいセグメントに加え、観光に刺激を求めるセグメント、移動型の観光を好むセグメントに属していることが分かった。このように、高級食材・高級料理とB級グルメでは、それらを食べる観光に関心のあるセグメントに違いがあり、B級グルメを観光資源として活用するためには、刺激的な観光や移動型の観光に関する観光資源との組み合わせも必要となることが示された。

(2)インバウンド観光客誘致のための受け入れ態勢の構築への課題

日本の地方中小都市の観光資源に対するインバウンド観光客の評価の解明

外国人観光客による日本の観光資源の評価は、観光資源そのものだけでなく、文化や料理などの背景にある歴史や日本の暮らしなど、観光資源をより深く理解するための情報を知ることができるかといった点も含めて行われている。したがって、地方都市の観光資源の価値をさらに高めるためには、英語の案内板やハンドアウトの提供により、保有する観光資源について歴史や暮らしとの関係などその観光資源をより深く理解するための情報を伝えていくことが重要

であると考えられる。

インバウンド観光客受け入れ先進地域での受け入れ態勢

文化体験の特徴や背景にある歴史、地域の暮らしとの関係性について知りたいというインバウンド観光客のニーズに対応するために、多言語の案内板やパンフレットで伝えることで対応している。また、外国人が入店しやすいように英語表記の手書き看板を用意したり、店頭で、使えるクレジットカードの一覧を表記したりするなど観光客の店舗への呼び込みを促すための工夫なども行われている。同時に、外国人観光客が日本を観光する時に感じる不便さを解消するための方策として、宿泊施設やレストランなどでのWi-Fiの整備、写真付きの多言語メニュー、WeChatペイやアリペイを含む様々な支払手段への対応、自動外貨両替機の設置と設置場所のマップ作製が行われている。外国人観光客とのコミュニケーションは、英語を話せない事業者でも、必要最低限の単語だけ覚えて、おもてなしの心を持って伝えようとする姿勢で接することで、外国人観光客には喜ばれている。どうしても英語が苦手な場合でも、近所の人などに手伝ってもらい、先に多言語のパンフレットを渡すことで質問を減らす、タブレットで会話ができるシステムの導入などにより、コミュニケーションを取ろうとしている。トラブルの回避については、あらかじめ多言語でわかりやすく注意書きをすることによって外国人観光客が文化の違いから悪気なくマナー違反をしてしまうことを防いでいる。

(3) 地方都市活性化と産業についての研究

本研究課題では、地方中小都市の経済振興策について、工場誘致の面からも検証を行った。具体的には、工場のタイプを大企業と中小企業および、基礎素材型と加工組立型に分類し、「工場立地動向調査」の個票データをもとに条件ロジットモデルを用いてそれぞれのタイプの工場の立地要因を分析した。その結果、産業集積の少ない地方中小都市に大企業を誘致するのは困難であること、加工組立型の工場誘致には、人材やインフラのための関連政策が有効であることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

石田貴士、丸山敦史、矢野佑樹「地方都市への外国人観光客誘致の可能性とその課題 - 黒石市モニターツアー参加者に対するアンケート調査の分析から 」、『開発学研究』(近刊)【査読付】

石田貴士、小林弘明「訪日外国人観光客の受け入れ態勢の整備とその課題 岐阜県高山市の事業者に対するヒアリングから 」、『食と緑の科学』(近刊)【査読無】

石田貴士、丸山敦史(2019)「フードツーリズムのセグメンテーション分析」『開発学研究』、29(3)、34-41。【査読付】

小川亮、石田貴士(2016)「立地要因分析から見た地方都市の工場誘致」『地域学研究』46(2)、199-212。【査読付】

石田貴士、丸山敦史、栗原伸一(2015)「B級ご当地グルメを利用した観光事業の展開方向に関する一考察」『フードシステム研究』、22(3)、193-200。【査読付】

〔学会発表〕(計 1 件)

石田貴士(2016)「フードツーリズムのセグメンテーション分析」生活経済学会@県立広島大学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。